

時代による瓦の文様のちがひ (軒丸瓦と軒平瓦)

鎌倉時代



室町時代



江戸時代
(慶長)



江戸時代
(元禄)



江戸時代
(天保)



明治時代



大正時代



今回工事



正倉院正倉整備工事
第3回現場公開



開催日 平成25年3月15日~17日

中倉内部(北倉側の壁) 主催者 宮内庁京都事務所、宮内庁正倉院事務所

【正倉】

正倉は、長いあいだ正倉院宝物を守ってきた倉庫です。現在、国宝に指定されています。

都が奈良におかれた奈良時代の中ごろ、聖武天皇が東大寺を開き、大仏を造りました。正倉は、はじめは東大寺の倉として建てられ、正倉院の宝物も、もともと聖武天皇ゆかりの品や、東大寺で使われた品でした。正倉がこの年に建てられた、という正確な時期はわかりませんが、聖武天皇が亡くなった西暦756年に近い頃と考えられてよいでしょう。大仏開眼の儀式が盛大に行われてから、あまりたっていない頃です。

正倉の姿は、写真でよく知られていますが、今回の公開では、それとは違った迫力ある姿が感じられるでしょう。でも、古い建物です。手でさわっただけでも、建物は傷みますので、さわらないようにしましょう。見学ルートは工事現場内でもあります。順路を守り、足元に気をつけて見学してください。

けんがくあんない
【見学案内】

<1階>

1階では、倉を支える 40本の東柱が見えます。この床下の高さが約2.7 m。自然石の礎石の上に立っており、東柱の直径は60cm程です。

一部の東柱は鎌倉時代に交換していますが、それ以外の東柱はほとんど創建当時の木だと思われます。じっくり観察してみてください。表面がもろくなってデコボコしています。約1250年も正倉を支えて雨風に耐えてきた証です。

東柱に巻いてある鉄のタガや台輪の銅板は江戸時代につけられたものです。これらの一部は錆などでわるくなっていますが、今回の工事では特に修理はせずそのままにしておきます。



こうじまえ しょうそう
工事前の正倉



たいわ
台輪
タガ
礎石
東柱

<2階>

2階に上がると、独立した入口をもつ三つの倉が並ぶ正倉の構造がよくわかります。北(正面向かって右)から順に、北倉・中倉・南倉という名前がついていますが、三角の校木を組み上げた両端の倉(校倉造り)と、あいだに挟まれた中倉の作り方の違いに気がつきませんか？ 中倉は校木を使わず、板で壁を造っています(板倉造り)。材木は檜。建物正面の長さ(間口)は約33 mです。

中倉、北倉の扉が開いていますね。のぞいてみて下さい。壁は普段見ることができない校木の内側です。



あぜぎ だんめん
校木の断面

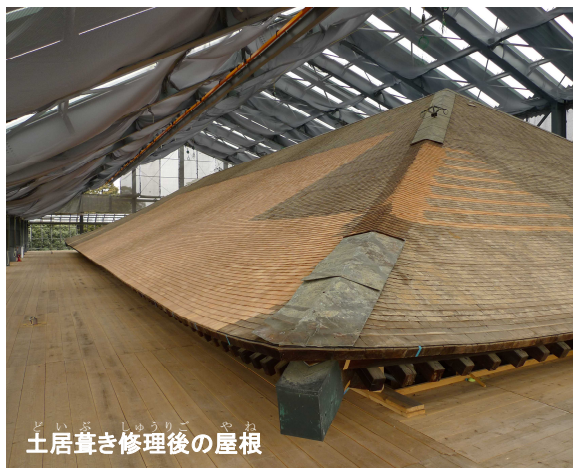


こうじご ぼくそうないぶ
工事後の北倉内部

<3階>

3階では、正倉の屋根が見えます。地面から屋根の上までの高さは約14 mになります。今は約35,400枚もの瓦を全ておろした状態で、下地の薄板を重ねた「土居葺き」が現れています。屋根の一部には穴があいていますね。その奥には屋根を支える骨組みを黒い鉄の板で補強した様子が見られます。傷んだ瓦は取り替えて、『建物がながもちするように』というのが100年ぶりに工事をおこなう大きな目的です。軒先に使った瓦には、蓮華や唐草、文字などの飾りがあります。その文様や形から、いつごろ作った瓦かがわかり、修理の歴史を知ることができます。

周囲の景色も、この機会で見なければ見られない絶景です。帰り道は、順路を守り、足元に気をつけて降りていって下さい。見学ありがとうございました。



どいぶ しょうりご やね
土居葺き修理後の屋根



ほねぐ ぼきょう
骨組みの補強